

中国の対日鉱産物輸出の構想

岸本文男（地質相談所）

Fumio KISHIMOTO

短い文章ではあるが 1986年7月25日付けの新聞「中国地質報」は「我国対日出口鉱産物前景展望」という記事を掲載した。地質相談所ではこれを苦笑いしながら読んだ。そして日本語に完訳して皆さんに読んでいただくことにした。

中華人民共和国鉱産資源法が1986年10月1日に施行され 中国は初めて全国的な鉱業法を手にした。難しい問題は多々あるようだが この法律の内容からすると中国の鉱業は今後相当伸びるだろう。その伸びが日本に生きる我々にどのような影響を与えるか 考えてみる価値はありそうだ。記事は次のように述べている。

日本は資源が欠乏し 中国は鉱産資源が豊かである。日本は工業が既に高い技術水準に達して 伝統的技術の生産物に対しては 有利な条件でなら その一部が輸入される傾向にある。このことは 我々が鉱産物の対日輸出を進展させる上での有利な条件と言える。現在 日本経済は伸長速度が緩慢 鉄鋼産業は不景気であり 原料に対する需要は伸び悩んでいる。そのため 我々が対日輸出の拡大を願っても 満足できるほどの需要の伸びは望めず 「無理強い」に頼ることになる。そうすれば 日本が輸入先を変えるように勧めることにもなる。我々の商品が日本市場に押し入ることにもなる。この種の仕事は非常に難しいもので もし軽く考えてまずい対応をすれば どうしても他人を排斥するか 他人に排斥されるかしかなくなる。このため 我々は必ず常日ごろからの 調査・研究を強め 三有数（日本市場の需要量 輸入量 中国からの輸入量とその割合に対する確信がもてる数値）三清楚（日本の需用家の数量 品質 包装（荷造）引き渡しに対する具体的な要求 競争相手の商品の優れた点と欠点および価格水準 我々の商品の優れた点と欠点および価格のはっきりとした認識）を把握し 一つの発展的観点を打ち立て その発展の観点からどんな問題をも解決し 輸出が拡大できる新しい道を見つけなければならない。現在手持ちの輸出商品に対しては それが大規模な商品であっても 努力して経営の向上をはかり 既に持っている陣地を強固にし 精一杯拡大する必要がある。同時に 新しい品目 新しい顧客 新しい貿易方

式を力を尽して開拓しなければならない。現時点では 錫 タングステン砂 稀土類 金属シリコン 鉄合金 天青石 高級耐火原料 建設用鋳鉄 そして幾つかの金属製品が何れも発展の可能性を持っている。このため 我々は今後好みによく合った商品を確保する工作をしなければならぬ。

日本の工業企業は管理に精通し すでに企業内部の全面的な品質管理が輸入原料商品の要求にも現れており 輸入する原料に対して長期間の供給 品質の良さ・安定・均質 数量の均等 引き渡し時期厳守を要求し 生産の連続性と品質の安定を保証するよう要求している。それで 日本側はしばしば現地の視察によって 注文に合った鉱石 工場 地域を知ろうとする。しかし 我々の幾つかの商品は 品質の規格 均衡のとれた供給 その時点での引き渡しの面で 市場の要求に応じられるようにはなっていない。たとえば シリコン鉄の粒度区分とボーキサイトの比重がいずれも足りないこと あるいはバナジウム華の品質が不均質などがある。我々は最大限の力を発揮して 鉱産物の品質を改善し 均質 安定した 均衡のとれた供給を行い 引き渡し時期を配慮し 日本の様々な工場の需要を切実に考え 希望に合った商品を確保する必要がある。幾つかのよく売れる商品（たとえば 金属シリコン 鉄合金 人造黒鉛 青島306花崗岩素材など）に対しては積極的に商品を確保し 競い合っただけで多量に輸出しなくてはならない。

対日輸出に対しては 具体的な方法として 各分野での条件が熟した時に長期協定に署名し 短期の価格を協定し 鋼材輸入の数量を十分に運用して 長期安定供給を上手にやれば 第七次5か年計画の期間における対日輸出はかなり大きく伸びるだろう。

（中国地質報 1986.7.25）

なお 新聞「中国地質報」の記事は 地質相談所において少しづつ翻訳され ワードプロセッサのフロッピーディスクに収められつつある。いずれは 希望される記事のうち 翻訳済みのものに限ってプリントし 地学文献センター（TEL 0423-62-5050）を通じて希望者にお渡し出来るかもしれない。